

「共育の輪、広げよう、巻き込もう！」令和5年度コミュニティ・スクール 令和5年度「前期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果

春日市教育委員会

1 評価の目的

- (1) 各学校において現状確認の機会とし、取組のアイデアや改善点を見出すこと。
- (2) 評価について学校運営協議会で議論を行い、方向性の共通理解を図ること。

2 評価方法

- (1) 各小中学校の学校運営協議会委員、教職員を対象に4段階で評価。
(評価対象期間は、令和5年4月～令和5年10月。)
- (2) 評価の観点は、次に示すとおり。

I 共育文化醸成の進捗状況
1 コミュニティ・スクールの組織と運営
2 学校の目標・課題の共有
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築
4 コミュニティ・スクールの認知
II 開かれた教育活動等の進捗状況
1 地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組
2 学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)の取組
3 地域に開かれた学校情報
III コミュニティ・スクールによる成果
1 学校経営・運営の進捗状況
2 子どもの育ちの状況
3 家庭の教育力の状況

- (3) 学校運営協議会における学校関係者評価に合わせて実施することで、提示された学校の自己評価や保護者、地域、児童生徒アンケート等の客観的なデータに基づいた評価とする。
- (4) 評価の実効性・客観性を高めるため、電子申請による評価を実施する。

3 評価結果の算出方法

- (1) 各評価小項目及び評価小項目全体の平均値、さらに、その標準偏差を集計する。
- (2) 各評価小項目を「上位群」「中位群」「下位群」の3グループに分ける。
 - ・ (平均+標準偏差)以上のグループを「上位群」の小項目とする。
(令和5年度前期は、小学校3.3以上、中学校3.4以上、
令和4年度前期は、小学校3.3以上、中学校3.3以上)：緑色セルで表示
 - ・ (平均-標準偏差)以下のグループを「下位群」の小項目とする。
(令和5年度前期は、小学校3.1以下、中学校3.0以下、
令和4年度前期は、小学校2.9以下、中学校2.9以下)：ピンク色セルで表示
 - ・ それ以外のグループを「中位群」の小項目とする。

4 評価結果と考察

評価結果は次ページに示すとおりである。

令和5年度「前期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果 小学校（前年度との比較）

※ 4段階評価(4 そう思う 3 概ねそう思う 2 あまりそうは思わない 1 思わない)	R05前期 評価結果	R04前期 評価結果	差
I 共育文化醸成の進捗状況			
1 コミュニティ・スクールの組織と運営	3.1	3.0	0.1
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.2	3.2	0.0
② 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.2	3.0	0.2
③ 子どもたちは学校運営協議会に積極的に参加していますか。	2.9	2.9	0.0
2 学校の目標・課題の共有	3.2	3.3	▲ 0.1
① 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.3	3.3	0.0
② 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.3	3.3	0.0
③ 保護者や自治会と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.1	-	-
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築	3.5	3.4	0.1
① 学校は、地域の行事や活動等に協力的ですか。	3.5	3.3	0.2
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.3	3.3	0.0
③ 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.5	3.4	0.1
④ 地域コーディネーターは、学校と地域や保護者とのつなぎ役になっていますか。	3.6	3.5	0.1
4 コミュニティ・スクールの認知	3.1	3.1	0.0
① CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	3.0	3.0	0.0
② CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.3	3.2	0.1
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者・地域住民へ周知されていますか。	3.1	-	-
II 開かれた教育活動等の進捗状況			
1 地域連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組	3.2	3.1	0.1
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）	3.3	3.2	0.1
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）	3.2	3.2	0.0
③ 子どもと保護者・地域住民が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）	3.1	3.1	0.0
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）	3.2	3.0	0.2
2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組	3.3	3.1	0.2
① 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.2	3.1	0.1
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.3	3.1	0.2
3 地域に開かれた学校情報	3.4	3.3	0.2
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.3	0.1
② 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.4	3.2	0.2
III コミュニティ・スクールによる成果			
1 学校経営・運営の進捗状況	3.2	3.1	0.1
① 学校の考えや方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.2	3.1	0.1
② 学校を支援・応援する声や行動の増加につながっていますか。	3.1	3.1	0.0
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.2	3.2	0.0
2 子どもの育ちの状況	3.1	3.0	0.1
① 市民性（地域や地域情報に関する関心）の育成につながっていますか。	3.1	3.0	0.1
② 学力や体力等の生きる力の育成につながっていますか。	3.1	-	-
③ 基本的生活習慣や学習習慣の形成につながっていますか。	3.1	-	-
3 家庭の教育力の状況	3.0	2.9	0.1
① 基本的生活習慣や学習習慣への保護者の関心につながっていますか。	3.0	-	-
② 子どもの学びや体験交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	3.0	2.9	0.1
③ 子どもを誘っての保護者自身の地域行事等への参加につながっていますか。	3.0	2.8	0.2
全体結果	3.2	3.1	0.1
標準偏差	0.052	0.167	

令和5年度「前期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果 中学校（前年度との比較）

※ 4段階評価(4 そう思う 3 概ねそう思う 2 あまりそうは思わない 1 思わない)	R05前期 評価結果	R04前期 評価結果	差
I 共育文化醸成の進捗状況			
1 コミュニティ・スクールの組織と運営	3.2	3.0	0.2
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.3	3.2	0.1
② 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.2	3.0	0.2
③ 子どもたちは学校運営協議会に積極的に参加していますか。	3.1	2.9	0.2
2 学校の目標・課題の共有	3.1	3.2	▲ 0.1
① 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.0	3.1	▲ 0.1
② 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.3	3.2	0.1
③ 保護者や自治会と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.1		
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築	3.4	3.3	0.1
① 学校は、地域の行事や活動等に協力的ですか。	3.5	3.2	0.3
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.3	3.2	0.1
③ 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.4	3.4	0.0
④ 地域コーディネーターは、学校と地域や保護者とのつなぎ役になっていますか。	3.5	3.3	0.2
4 コミュニティ・スクールの認知	3.2	3.2	0.0
① CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	3.2	3.1	0.1
② CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.3	3.2	0.1
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者・地域住民へ周知されていますか。	3.1		
II 開かれた教育活動等の進捗状況			
1 地域連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組	3.0	3.1	▲ 0.1
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）	3.1	3.1	0.0
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）	3.0	3.0	0.0
③ 子どもと保護者・地域住民が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）	2.9	3.0	▲ 0.1
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）	3.1	3.1	0.0
2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組	3.3	3.2	0.1
① 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.2	3.1	0.1
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.4	3.3	0.1
3 地域に開かれた学校情報	3.4	3.3	0.1
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.5	3.3	0.2
② 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.3	3.2	0.1
III コミュニティ・スクールによる成果			
1 学校経営・運営の進捗状況	3.1	3.1	0.0
① 学校の考えや方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.1	3.0	0.1
② 学校を支援・応援する声や行動の増加につながっていますか。	3.1	3.1	0.0
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.2	3.1	0.1
2 子どもの育ちの状況	3.1	3.1	0.0
① 市民性（地域や地域情報に関する関心）の育成につながっていますか。	3.2	3.1	0.1
② 学力や体力等の生きる力の育成につながっていますか。	3.1		
③ 基本的な生活習慣や学習習慣の形成につながっていますか。	2.9		
3 家庭の教育力の状況	2.9	2.8	0.1
① 基本的な生活習慣や学習習慣への保護者の関心につながっていますか。	2.9		
② 子どもの学びや体験交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.9	2.9	0.0
③ 子どもを誘っての保護者自身の地域行事等への参加につながっていますか。	2.8	2.7	0.1
全体結果	3.2	3.1	0.1
標準偏差	0.190	0.164	

令和5年度は、コミュニティ・スクール進捗状況評価の評価小項目を39項目から30項目に変更した。令和5年度の取組みの重点は以下の4点である。

- ①目標や目的を共有する熟議の充実
- ②地域コーディネーターのつなぎ役を生かした地域学校協働活動の整備・充実
- ③成果を意識した取組の充実
- ④コミュニティ・スクールの目的や仕組み、活動等の認識の強化・拡大

(1) 小学校

①全体的傾向

- ・令和5年度前期の平均は3.2であり、令和4年度前期より0.1ポイント上昇した。
- ・令和5年度前期の標準偏差は0.052であり、令和4年度前期の0.167から大きく減少し、各小項目間のバラツキが極めて小さくなっている。

②評価項目を比較して

- ・評価小項目を30項目に減らし、令和4年度前期と比較できる項目は25項目である。その25項目を比較すると、15評価小項目で増加し、減少した評価小項目はなかった。
- ・令和5年度前期と令和4年度前期の下位群の数を比べると、3項目から12項目に増えているが、令和5年度前期は標準偏差が0.052と、令和4年度前期の標準偏差0.167から大きく減少したことにより、中位群の幅が極端に縮小したことによるものである。今年度の下位群12項目のうち、昨年度の下位群の基準値2.9ポイントを上回っている項目が11項目であり、2.9ポイントの項目は1項目のみである。
- ・3.3ポイント以上の上位群は、7項目から11項目に増加している。
- ・紺色の評価中項目を比べると、Ⅰ-3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」の数値が3.5であり、令和4年度前期に引き続き高い。また、Ⅱ-3「地域に開かれた学校情報」の数値も3.4と高い。
- ・評価小項目Ⅰ-3-④「地域コーディネーターのつなぎ役」の項目の数値は3.6ポイントであり、令和4年度前期に引き続き、30の評価小項目の中で最も高い数値である。
- ・大項目Ⅲ「コミュニティ・スクールによる成果」については、下位群の項目が7項目と増えているが、中項目Ⅲ-1「学校経営・運営の進捗状況」、Ⅲ-2「子どもの育ちの状況」、Ⅲ-3「家庭の教育力の状況」とともに数値が上昇し、若干ではあるが改善の兆しが見られる。

(2) 中学校

①全体的傾向

- ・令和5年度前期の平均は3.2であり、令和4年度前期より0.1ポイント上昇した。
- ・令和5年度前期の標準偏差は0.190であり、令和4年度前期の0.164より増加し、各小項目間のバラツキが大きくなっている。

②評価項目を比較して

- ・小学校と同様に、評価小項目を30項目に減らし、令和4年度前期と比較できる項目は25項目である。その25項目を比較すると、17評価小項目で増加し、減少した評価小項目は2項目であった。

- ・令和5年度前期と令和4年度前期の下位群の数を比べると、1項目から7項目に増えている。
- ・3.4ポイント以上の上位群は、わずかではあるが4項目から5項目に増加している。
- ・評価中項目については、Ⅰ-3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」の数値が3.4であり、令和4年度前期に引き続き高い。また、Ⅱ-3「地域に開かれた学校情報」の数値も3.4と高い。
- ・大項目Ⅲ「コミュニティ・スクールによる成果」については、下位群の項目が4項目と増えているが、中項目Ⅲ-3「家庭の教育力の状況」は、0.1ポイント上昇し若干ではあるが改善の兆しが見られる。

(3) 令和5年度の実施の重点

令和4年度は「コロナに甘えず、つながりを深めよう」を合言葉に、各学校や地域が「できることを、できる形にして」様々な創意工夫を積み重ね、コミュニティ・スクールの取組を進めてきた。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な制限も緩和され、コミュニティ・スクールの取組がより一層活発に、組織的に展開されることを期待している。そこで、令和5年度は、コミュニティ・スクール再生・活性化の年と位置づけ、「共育の輪、広げよう、巻き込もう」をスローガンに、次の4点を本年度の重点とし取組を進めている。

①熟議の充実と学校経営への反映

令和5年度当初に、熟議の実施回数及びテーマ並びに児童生徒の学校運営協議会への参加回数を調査した。市内18校の学校運営協議会の平均実施予定回数は5.3回で、熟議の平均実施予定回数は2.2回である。また、児童生徒の参加予定の実施回数は、1.9回であり、令和4年度と同程度である。令和5年度前期の中項目Ⅰ-1「コミュニティ・スクールの組織と運営」の項目が、令和4年度前期と比べ、小学校で0.1ポイント、中学校で0.2ポイント上昇し、熟議の充実と児童生徒の学校運営協議会の参加が寄与していることがうかがえる。各学校が、学校運営協議会で実施する教育課題や経営課題等に関する熟議の内容が確実に学校経営に反映されるように、2月の校長会でレポートを作成し中学校ブロック協議を実施し、「熟議と学校経営」をPDCAサイクルとして一体的に推進する予定であり、より充実したコミュニティ・スクールの展開につながると考える。

②市民性を育む地域学校協働活動の充実

令和4年度は、市校長会において「市民性」の定義等を改めて確認し、子どもの市民性の育ちを学校関係者評価にも位置付けることを決め、全校で実施している。市教委も子どもの市民性の育ちのレポートを各学校から募集し「春日市児童生徒の市民性の育ち記録集 vol I」にまとめ発刊した。記録集は、令和5年度第1回の学校運営協議会で委員全員に配付した。各学校及び各地域での地域学校協働活動も充実している。春日北中学校では、事前学習で修学旅行先の京都市嵐山のごみ問題が課題になっていることを知り、修学旅行中に嵐山でごみ拾いを行った。その行いは京都新聞にも掲載されている。また、春日西中学校では、生徒が公園に時計があると利用者に役立つのではないかと考え、自治会に設けてあるご意見ボックスに要望事項をまとめ投稿した。その要望を知った自治会長が市の関係部署に報告し、2つ

の公園に時計が設置された。このように、各学校及び各地域での地域学校協働活動の充実が、「よりよい地域社会実現のために地域に関わろうとする意欲や行動力」と定義している市民性の育成につながっている。

③「共育の輪」を広げ、巻き込み、コミュニティ・スクールの目的や仕組み等の認識強化・拡大

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し制限も緩和された。そこで、令和5年度は、学校、家庭、地域など多くの方を巻き込み「共育の輪」を広げていきたい。市教委から各学校に依頼し、令和5年度の地域学校協働活動への参加人数目標値を設定してもらった。目標値の達成が目的ではなく、多くの方に地域学校協働活動に関わっていただくことで、「共育の輪」が広がり、コミュニティ・スクールの目的や仕組み、活動等に関する認識も強化できると考えている。前期のコミュニティ・スクール進捗状況評価の中項目Ⅰ-4「コミュニティ・スクールの認知」の数値は、令和4年度前期と同数であるが評価小項目の数値は若干上昇傾向にある。

④成果を意識した取組の充実

評価大項目Ⅲ「コミュニティ・スクールによる成果」に関して、小中学校ともに下位群が多くみられるのが現状であるが、評価小項目は若干の伸びも見られる。評価小項目Ⅲ-1-②「学校を支援・応援する声や行動」に関しては、中学校を卒業した高校生等が、おやじの会が主催する段ボールハウスやお化け屋敷の運営補助に関わったり、子ども食堂の運営スタッフとして活動したりしている姿も見られる。本年度作成予定の「春日市児童生徒の市民性の育ち記録集 volⅡ」では、学校や地域を支援する卒業生等の活動の様子もまとめ、コミュニティ・スクールの成果の見える化を行う。見える化した記録集を広く周知することで、保護者をはじめとする市民のコミュニティ・スクール理解及び関心を高めていきたい。

令和5年度「前期」 平均値と標準偏差

